

# 円安は長期要因か？ 急変した為替市場

こ

これまで緩やかな動きだった為替相場が急変した。3月28日のロンドン市場では一時125円09銭を記録した米ドル。1カ月足らずの間に10円を超える急変動で、多くのアナリストは為替の予想レンジを修正した。その後も円安は進み、約20年ぶりに126円台を記録している。

円安が進んだ背景として指摘されるのは大きく二点。まずは日米の金融政策の違いだ。米連邦準備制度理事会(FRB)は3月にゼロ金利政策を解除。この後もインフレの抑制に力を入ると表明しており、利上げを続ける見通しを提示している。一方で日本銀行は金融緩和を続ける姿勢で、このところの金利上昇に対し、満期10年の国債を無制限に買う「指値オペ」を実施している。日米の金利差は当面拡大方向に向かうとの予測を強める状況となっており、これが米ドル高円安の圧力となっている。

もう一つは、エネルギーをはじめとする資源価格の上昇。食料自給率37%、エネルギー自給率が11.2%の日本は米ドルを使っているいろいろなものを購入する必要がある。

資源価格の上昇はストレートに米ドル需要につながる。石油危機など、過去に原油価格が大きく上昇したタイミングでは、サブプライム問題が顕在化しはじめた時期と重なっていたコモディティブーム当時を除いて、為替は大きく円安方向に振れている。

3月の急速な円安を招いた二つの要因。いずれも当面大きく転換することがないとみるのであれば、金利の上昇で魅力が増した海外の債券を考えてみるのも一つではないだろうか。

M

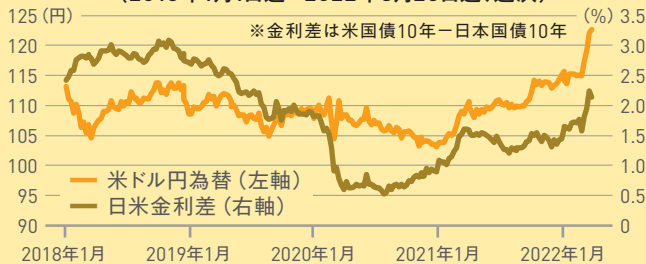
■ 図表1 過去の原油価格上昇と為替相場

	時期	原油価格 (1バレル当たり)	為替相場 (1米ドル当たり)
第一次石油危機	1973年10月	3.29米ドル	266.83円
	1974年8月	11.58米ドル	302.70円
第二次石油危機	1978年10月	14.02米ドル	176.05円
	1982年4月	32.97米ドル	236.30円
コモディティブーム	2007年1月	58.14米ドル	120.65円
	2008年4月	113.46米ドル	103.98円

※第一次・第二次石油危機時の原油価格は年次データ  
(出所)QUICK、BP統計等をもとに当社作成

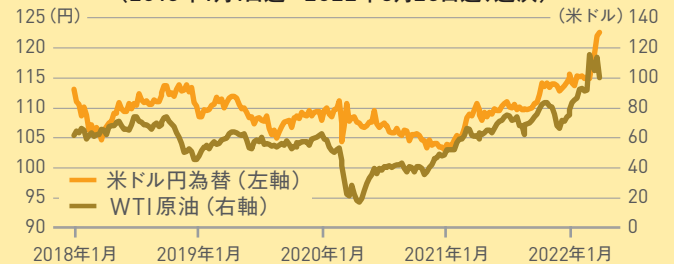
■ 図表2 日米金利差と為替相場

(2018年1月1日週~2022年3月28日週、週次)



■ 図表3 原油価格と為替相場

(2018年1月1日週~2022年3月28日週、週次)



(出所)QUICKのデータをもとに当社作成

## 外債投資のことなら 三菱UFJモルガン・スタンレー証券へ

「運用難の時代」とも言われるいま、より高い利回りを求めて海外に目を向ける方も多いのではないのでしょうか？  
当社では情報をわかりやすくご紹介するパンフレットや情報資料を作成しています。

ぜひ、ご相談ください。

